



【社会福祉随想リレー】

## 地域づくりは、人づくりから その2

研究科84年卒

(福)札幌市社会福祉協議会

白井 紀代美

### 2. 女性の立場の変化～ジェンダーの役割の変化

さて、冒頭に紹介した私の母は、要介護4で、現在東京の老人保健施設に入所しています。特別養護老人ホームに何度も申し込んでいますが、すべて落選しています。父は要支援1で、配食弁当を利用して独居生活をしています。85歳から、生まれて初めての一人暮らしをはじめて1年が経ち、現在では「満喫」しているようです。

しかし、先日肺炎を起こし救急搬送されました。祖父母を在宅で看取った私の両親は、現在の状況をどう考えているのだろうか、ふと考えてしまいます。

父は、昭和一桁生まれの頑固親父でしたから、「女に学問は要らない」と私の進学希望を否定し、「父が決めた人と結婚するのだ」と言っていました。けれども母は、自分自身が「やりたいことができなかつた」という思いで、私の希望にはほぼ賛成してくれました。

その私は、25年前に実家の東京を離れ、札幌に移り住み、2人の子どもを出産し、子育てしながら仕事を継続し、現在に至っています。当時は、社会も職場も大半は、「女は子どもを産んだならば、仕事は辞めるものだ」と思っていたようです。「パワハラ・セクハラ・マタハラ」などという言葉すら聞いたこともない時代でしたから、子育てをしながら仕事を続けるということは、それなりの覚悟も必要でした。もちろん夫の協力があつたからこそ、なんとか乗り越えられたのだと思います。

振り返るとこの間に、「女性の立場」が大きく変容したことを感じます。「介護」も

「子育て」も女性中心に担ってきた時代から、「社会全体の意識」も変わってきたのだと思います。

1960年代後半くらいから女性の社会進出、ウーマンリブ（女性解放運動、women's liberation movement）や、1970年代には食品メーカーのテレビCMで、「私作る人」、「僕食べる人」というフレーズが社会問題になったりするなど、世の中が「男女平等」に敏感に反応し出しました。

今も男尊女卑の名残はあるものの、この間に急速に「ジェンダー」の感覚が変わってきたように思います。

### 3. 介護保険「改正」と個人情報～法の壁と現実対応

18年度「改正」は医療・介護同時「改正」で、「医療と介護の連携」をすることで医療者側も介護側も報酬が加算される「連携加算項目」が増えました。医療保険の診療報酬を削減することを目的に入院日数を減らして、在宅支援者とうまく連携して自宅の生活に戻す、また、途切れないように入院中の状況をケアマネーに伝え、自宅に戻っても必要なサービスが適切に入ることができるようにする、ということです。

けれども、在宅で支援するサービスを整えることができず、「サ高住」を選択せざるを得ない利用者が少なからずおり、「長生きするものではないなあ」、「早くお迎えが来ないかなあ」とこぼす高齢者を見るたびに胸が痛くなります。「青春時代」は戦争中であり、食べ盛りの楽しい時期を我慢し、戦後は高度成長期。休みなく働いて、そしてようやく落ち着いた老後なのに、介護サービスは2割負担、今年度から3割負担も導入されます。

いつまで在宅生活を継続できるのか不安でいっぱいになり、「老年期うつ病」の発症。「サ高住」への転居を余儀なくされる…。「介護保険制度」は「今まで暮らしてきた家で生活することを望む高齢者にサービスを提供すること」、「在宅生活が継続できるようにすること」が目的だったのではなかったのでしょうか。

最近とみに近所づきあいも希薄になり、かつての「向こう三軒両隣」の、人となのかかわりが無くなってしまった今、すべて「個人情報」という観点から、専門職ですら必要な情報を得ることができません。個人情報漏洩の事故を防ぐことは必要ですが、必要な支援もできないことの方がもっと問題だと思っています。（以下、次号）

## 同窓会秋季セミナーを開催

ご存じのように、北海道同窓会は毎年、道内4ブロックが持ち回りで「秋季セミナー」を開催しています。今年は道央ブロックの担当ながら、1月の新春セミナーの際には、「我が地で遣ります」との立候補がありませんでした。そこで、（渋々）小樽が手を上げざるを得なかったのです。

小樽市での開催は5年振りであり、「折角、開催するのであれば…」と、次のようなことを企画しました。

つまり、「しゃらく祭」と「ヨコイト」の主催、本学と日福大が共催、という形を採ることにしたのです。そして、メインタイトルは、『『地域福祉力の形成』をめざす市民公開セミナーin小樽』とし、「市民が創る地域福祉計画の考え方と進め方」をサブタイトルとしました。

なお、「しゃらく祭」とは、小樽に於いて「社会福祉の街づくり」を実践している社会福祉及び街づくり関係者の集まりです。毎月第4水曜日の18:30から、「まるた」という見世を会場に、2012年より毎月ずっと例会を開催してきています。

また「ヨコイト」とは、今年の3月に、道内在住の14大学30人により結成された「北海道社会福祉系大学等卒業生等交流会」のことで、個人、団体、組織の枠を超え、お互いの活動交流を通じて、北海道の社会福祉現場の向上発展をめざしていく「緩い繋がり」の連絡会組織です。

日社大秋季セミナーはこれまで、それぞれの地域での開催時には、その地域の個人、団体、組織等との連携を意識して開催してきました。今回は、さらに上記の「新しい形」でのセミナーを実施すべく、小樽市内外の人たちの協力を得て開催に至りました。

以下、当日の内容を報告します。

10月20日(土)は、『『地域福祉力の形成』をめざす市民公開セミナーin小樽』として、約50人参加で実施しました。

主催者挨拶(村上会長)、来賓挨拶(小樽市長、社協事務局長)に続き、記念講演は「住民参加の地域福祉計画をどう策定していくのか」(野口日福大特任教授)、シンポは「我が街の地域福祉力形成の具体的取組から」として、今回のセミナーに相応しい3人の方々(日福大出身の中田さん、社大出身の儀藤さん、美瑛の伊藤さん(小規模多機能の先駆的実践者))からそれぞれ報告、提起がありました。

これを受けて会場での活発な論議となりました。

セミナー終了後は、市内の「魚真」において、25人参加で懇親会が催されました。

岩崎同窓会長が開会の挨拶をし、その後は、和やかな宴会が繰り広げられました。ここには、社大のほか、日福大、北星大、名寄大、淑徳大などの卒業生が参加しました。本学からは、岩崎会長ご夫妻のほか、森田学生支援課長も参加しました。

翌21日(日)は、社大+日福大による「秋季セミナー」として、「誰も知らない小樽Tour」と昼食会が持たれました。

小樽Tourでは、天狗山、旧日本郵船、運河周辺、旧手宮線などを見学して回りました。それぞれに解説が付き、一味違った「小樽観光」となりました。

また、昼食会はそば処「藪半」で行われ、10数人の参加で、美味しい蕎麦料理を食しながら、セミナーの2日間を振り返りました。

全体としては、「成功」ということなのでしょうけれど、「秋季セミナー」としては幾つかの課題も残りました。

その1は、出欠の返信が少なくなっている、ということです。その数は30人弱でしかありません。本来返事を寄越しても良い人からも戻ってきていないのが現状です。

その2は、セミナーへの参加者の減少です。この時期はそれなりにみな忙しい時期とはいえ、10人程度のセミナー参加では、先行きに不安を感じてしまいます。

その3は、(比較的)若い人たちとの交流が希薄になっており、社大卒業生である彼らがどのような社会福祉実践をしているのかが見えてこない、ということです。

総じて、同窓会及びその活動に対する帰属意識が低くなっているということの表れであり、道同窓会としては深刻に受け止める必要があります。

かつ、それ以上に、本学や本学同窓会がもっと危機意識を持つべきでしょう。道同窓会としては、毎年の同窓会幹事会に提言(提案)を行ってはいるものの、社大内では、それらについて論議し、進展していくという兆しが仲々見られないのが現状です。今回の高校訪問(10/19に札幌を中心に行ってもらった)に関しても、本学自体が関東圏で一定の受験生を確保できることから、「わざわざ北海道にまで手を付ける必要がない」とでも考えているのでしょうか。しかし、少子化が着実に進んでいることを考えるとき、現状に慢心、拝跪することなく、将来をきちんと見据えての今からの対応をしっかりとしておくべきではないか、と愚考します。

北海道同窓会としても、この「アガペ」を含め、特に若い世代に対するもっと多様な同窓生への働きかけを考えていくべき時期に来ていることは間違いのない処です…。

## 新刊図書のご案内です…

倉田稔さん(元日社大経済学教員、元小樽商大教授)が、『日本社会をよくするために』(成文社)を刊行しました。「金権政治をなくそう」に始まり、選挙、行政、労働、教育…と各論が続いています。是非、ご一読を!

今回の講師の野口定久さんが『ゼミナール地域福祉論』(中央法規)を刊行しました。「図解でわかる理論と実践」とのサブタイトルが付いています。小樽市長にも謹呈し、「是非、きちんと読ませていただきます!」との市長の弁でした。

## ☆☆☆新春セミナー予定のお知らせ☆☆☆

例年、新春セミナー(新年会)は、1月の第3もしくは第4土曜日を予定しています。

2019年は、第4土曜日の1月26日(土)となりますので、みなさまにおかれましては、まずは「予定のみ」入れておいてください。

出欠については、後日改めて場所等の案内と共に出欠葉書を送付予定です。

多数のみなさんのご参加を心よりお待ちしております。